"KANAGAWA"
福祉タイムズ
2003 1 No.614

発行日　2003年（平成15年）１月15日
毎月１回15日発行
発行所　〒221-0844　横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423　FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人　清水勝夫
定　価　80円（郵送料込）
印刷所　株式会社　神奈川機関紙印刷所
昭和27年１月30日　第三種郵便物認可

「思いやりを大切にしたい」ポスター部門で「ともしび大賞」（３面参照）を受賞した小田原市立城山中学２年の鈴木恵美里さんは、中１の時総合学習で福祉を選択した。祖母の車椅子を学校に持ち込み体験することから始めてみると、意外に苦労が多いことに気付かされる。祖母と行くケアセンターでは障害を持つ方とも出会う。「描くだけでなく、実際にふれあいながら考えると学ぶ事も多いです。大賞を一番喜んでくれるのは、こんなきっかけをくれた祖母だと思います」と爽やかに話す。**（写真・文　菊地信夫）**

あんぐる

ミスや間違いはつきもの。とはいえ信頼で成り立つ記事にそれは許されません。小紙でも「ミス撲滅」に心血を注いでいます。

パソコン主流の最近は変換ミスの恐れが付きまといます。これは笑えないし、とんでもない誤解を招きかねません。そこへいくと昔の手違いは、その内幕、内情がかいまうかがえ、情状酌量の余地もあったようです。

小紙でも伝説の域に達している〝名作〟が少なくありません。極めつけは火事の記事。「警察は、火元の湯沸かし器を呼んで事情を聴いている」とやってしまったのです。

まだ、文選といって手作業で鉛活字を拾って記事を組んでいる時代のこと。時間に追われ、活字を抜き差しして記事の差し替えを行っているうち、文章が混乱したのです。

このミスに対する読者の反応がまた泣かせるものでした。「これだから神奈川新聞はやめられない」「湯沸か氏は事情聴取になんと答えたのか、続報を」。そんな手紙が相次ぎました。なんと温かい、諧謔の味…。古き良き時代を思わせるエピソードです。

殺伐とした現代。中には間違いであってくれればと思うニュースさえあります。今年は世相も穏やかであってほしいものです。

神奈川新聞文化部長　福江裕幸

目次……CONTENTS

14年社会福祉関係叙勲・褒章等受賞者……2・3
ともしびポスター・絵本コンテスト入賞作品決定……3
2002年福祉の動き……4・5
ペンライトの光とホカロンの温もりの中で……6
本年度ケアマネ試験結果のお知らせ……6
連載・企業の姿勢から学ぶもの(10)……8・9

恭賀新年

新たな希望と情熱に溢れた素晴らしい新年を迎えられましたことを、皆様とともにお慶び申し上げます。

さて、本年は、「新県社協活動推進計画」の三年次目にあたり、平成十六年度事業・予算への反映を図るため、制度改革期における国・県の施策動向や県民の福祉ニーズなどを踏まえた、計画の見直しに着手するとともに、創意と工夫を凝らした事業への取り組みを図りたいと考えております。

特に、重要な取り組み課題となっております、福祉サービス利用者の「権利擁護」や「苦情解決」事業の充実・強化に努力するとともに、「福祉サービス第三者評価事業」への新たな取り組みについて、会員の皆様をはじめ県・指定都市行政並びに関係機関・団体との協働・連携のもとに推進を図ってまいりたいと思います。つきましては、旧年に増してご支援賜りますようよろしくお願い申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

社会福祉法人
神奈川県社会福祉協議会
会長　阿部　絢子

叙勲・褒章等受賞者

◇民生委員児童委員優良活動団体
屏風ヶ浦地区民生委員児童委員協議会（横浜市磯子区）子育て支援グループ「たんぽぽ」（川崎市幸区）
◇社会福祉事業施設の長・社会福祉事業団体関係功労者
前田長靖（恵和青年寮施設長）清水フミ子（まきが原愛児園園長）森三郎（ソーレ平塚施設長）加茂坂幸昌（シルバータウン相模原特別養護老人ホーム施設長）
◇社会福祉事業施設従事功労者
紺野悦（ルンビニ合掌苑調理員）石川喜多子（川崎乳児保育所所長）寺村洋子（川崎市恵楽園寮母）小鹿八千子（共楽荘主任寮母）霜降靖代（渕野辺保育園保育士）嶋田ケイ子（ふくざわ保育園保育士）
◇共同募金運動奉仕功労者
阿内和子（川崎市川崎区）吉野友一（川崎市中原区）武田市太郎（茅ヶ崎市）太田金太郎（厚木市）
◇共同募金運動奉仕功労団体
横浜市健民少年団（横浜市）日本ボーイスカウト横須賀地区協議会（横須賀市）日本ボーイスカウト神奈川連盟小田原地区協議会（小田原市）
◇福祉事務所等職員功労者
栗原ちゆき（神奈川県立婦人相談所課長）永井洋保（神奈川県立総合療育相談センター課長補佐）勝田雄二（横浜市鶴見福祉保健センター係長）齋藤勲（横浜市中福祉保健センター係長）松橋秀之（横浜市中央児童相談所係長）小林明洋（川崎市幸区役所区民福祉部副主幹兼係長）仁上兼男（川崎市川崎区役所大師地区福祉センター副主幹兼係長）石川忠義（相模原市相模原福祉事務所副主幹）
◇生活保護指導職員等功労者
泉新一郎（横須賀市福祉事務所嘱託医）宇野昭遠（海老名市福祉事務所嘱託医）
◇訪問介護員（ホームヘルパー）功労者
松永君江（横須賀市）

法務大臣表彰

◇保護司
今村鎮夫（中）宮入昭（鶴見）故･服部順一、浮塩勉（神奈川）金子豊正（青葉都筑）田村和子（保土ヶ谷）北條祐勝（栄）山﨑静子（瀬谷）石渡勝朗、佐藤三郎（川崎大師）金子順一郎、佐藤利和、中村信一（中原）池田正順（高津）吉野浪子、井田正夫（多摩麻生）萩美枝子、服部融宣（鎌倉）小倉一湞（藤沢）小林博昭（大和綾瀬）久保田栄一（相模原）山口政男（平塚）小室治男（津久井）青山伊佐雄（小田原）松本幸（足柄上）
◇更生保護法人役職員
藤木幸夫（まこと寮）
◇更生保護婦人会員
水村日出子（西）小川孝子（三浦）長塚ギン（伊勢原）
◇“社会を明るくする運動”民間協力者
合資会社春鳳堂（中原）

日頃のご尽力に厚く御礼申し上げるとともに、益々のご活躍を祈念いたします。

ともしびポスター・絵本コンテストの入賞作品が決まりました！

「みんながともに生きるまち」をテーマに、県内在住・在学の小学生・中学生・高校生を対象に作品を募集した「ともしびポスター・絵本コンテスト」に、今年度も数多くの作品が寄せられました。

ポスターの部が第二十三回目、絵本の部は第十六回目を迎える今回のコンテストには、昨年度の応募数を大幅に上回る、ポスター一千四百八十六点、絵本三百二十一点の応募がありました。

その中から、審査会を経て、ポスターの部・絵本の部とも、ともしび大賞一点、最優秀賞六点、優秀賞・佳作各二十点、計四十七点の入賞作品が選ばれました。

去る十二月八日に、横浜情報文化センター・情文ホール（横浜市中区）にて開催された表彰式では、本会阿部絢子会長の挨拶に続き、ポスターの部、絵本の部の各入賞者へ賞状等の授与を行いました。

最後に審査委員を代表して、ポスターの部は画家の土田邦彦氏より、絵本の部は県立総合教育センター研修指導主事兼指導主事の平野明氏より、ポスターや絵本を作るうえでのコツを交えた、心温まるご講評をいただきました。

今回入賞した作品は、平成十五年二月十一日から十七日まで、横浜ランドマークタワー（横浜市西区）内の「フォーラムよこはま」のほか、三月十五日・十六日にかながわ県民センター（横浜市神奈川区）で開催される「市民活動フェア二〇〇三」にて展示されます。

思いやりや優しさにあふれる作品がいっぱいです。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

（ともしび普及課）

表彰式のようす

※本年度「ともしび大賞」を受賞した、小田原市立城山中学校二年の鈴木恵美里さん（ポスターの部）の作品と、私立鶴見女子高等学校三年の兼子朋美さん（絵本の部）の作品は、本紙一・十面に掲載されています。

平成14年社会福祉関係者

叙勲・褒章・功労賞

◇勲四等旭日小綬章

岡本昭一（元県福祉部部長）山田尚典（横浜市社会福祉協議会横浜生活あんしんセンター担当理事）

◇勲四等瑞宝章

白井好次（元神奈川県農業協同組合中央会会長）

◇勲五等双光旭日章

小島一也（川崎市多摩・麻生区保護司会副会長）

◇勲五等瑞宝章

飯田豊子（横浜市西保護司会副会長）石渡興惣右衛門（元川崎市川崎区保護司会副会長）　今村義彦（元横浜訓盲院施設長）　大西芳子（平塚ふじみ園業務課長）　風見正見（川崎市中原区大戸地区社会福祉協議会副会長）　鹿島庄平（川崎市中原区保護司会会長）　志澤正久（川崎市幸区保護司会）　渋谷章（相模原市保護司会）　瀬良梅子（横浜市鶴見保護司会理事）　髙橋照雄（川崎市多摩・麻生区保護司会会長）　玉盛達雄（心泉学園施設長）　鳥海恭子（平塚特別養護老人ホーム施設長）　野地博（小田原地区保護司会会長）三縄好一（横須賀保護司会南支部総務部副部長）渡辺三郎（横浜市南保護司会副会長）

◇勲六等単光旭日章

国分一三（神奈川県傷痍軍人会副会長）斉藤利純（元三浦市民生委員児童委員協議会会長）田所武弘（相模原市民生委員児童委員協議会副会長）横井久運（元横浜市鶴見区民生委員児童委員協議会会長）

◇勲六等宝冠章

小林千代（元横浜市中区民生委員児童委員協議会）鈴木福代（元厚木市民生委員児童委員協議会顧問）

◇黄綬褒章

北原頼子（元ゆうかり保育園主任保育士）橋口章公子（元林台保育園主任保育士）

◇藍綬褒章

相田正子（元厚木市民生委員児童委員協議会女性部会副部会長）浅岡タカ子（厚木地区保護司会理事）伊藤文子（横須賀保護司会中央支部理事）井上三郎（神奈川県指定自動車教習所協会会長）内田幸三郎（元藤沢市保護司会）金子光男（横浜市磯子区民生委員児童委員協議会会長）郷原久二男（鎌倉地区保護司会副会長）　後藤君之助（横浜市中保護司会分区長）佐伯省三（伊勢原市社会福祉協議会会長）内藤興（茅ケ崎地区保護司会副会長）橋本弘（神奈川県歯科医師会副会長）本多興一（元川崎市高津区保護司会）松本雅憲（足柄下保護司会会長）山田成（元横浜市神奈川区民生委員児童委員協議会副会長）和田花江（相模原市保護司会副会長）

◇神奈川文化賞

李仁夏（社会福祉法人青丘社理事長）

◇川崎市社会功労賞

芽の字会（視覚障害者への点訳活動ボランティア）

厚生労働大臣表彰

◇民生委員児童委員功労者

堀川善治（横浜市神奈川区）溝尾弘（横浜市戸塚区）大越由美子（横浜市旭区）石原チエ子（横浜市青葉区）関鶴子（横須賀市）宮内祥明（横須賀市）郷原久二男（鎌倉市）矢代仙（藤沢市）苗村信子（逗子市）晴山一正（大和市）

福　祉　の　動　き

○全国の動き
◇県内の動き
★本会の動き

	1	2	3	4	5	6
福祉関連のうごき（○数字は本紙での関連記事掲載月）	○国土交通省は駅の施設や乗り換え案内等の、バリアフリー情報統一提供システム「らくらくおでかけネット」の本格運用を開始 ○昨年から和解協議を続けていた国と元ハンセン病患者の原告団が「基本合意書」に合意、調印式を行う ○全日本ろうあ連盟とＮＰＯ法人ＣＳ障害者放送統一機構が、聴覚障害者に通信衛星を利用した災害情報伝達実験を全国40カ所で実施 ◇横浜市は福祉事務所と保健所を統合・再編し、各区に「福祉保健センター」を開所 ◇青葉区社協が不登校児童・生徒のフリースペース「フリースペースあおば」を開設	○政府・与党は、児童扶養手当についての最終見直し案を明らかに。支給5年後の給付減額や新たに無利子の貸付金制度も創設 ◇県が政策評価の結果を公表。宿所提供施設の管理運営費補助等を含む、県17事業の休廃止を検討すべきと結論 ◇川崎市は保育所待機児童の解消に向け、２０１１年度を期限とする10カ年の保育基本計画を発表 ★「第40回社会福祉研究発表大会」を開催③	○厚生労働省はＢＣＧ接種を乳児期のみにする方針を固める ○厚生労働省は少子化問題に取り組むため、若い世代で構成する「少子化社会を考える懇談会」を設置 ○厚生労働省の「福祉サービスにおける危機管理に関する検討会」がリスクマネジメントに関する取り組み指針を発表⑦ ◇県の実態調査結果で特養や老健で利用者の行動を制限する身体的拘束を行っている施設が9割を超えることが判明 ◇県「少子化時代の子育て支援取組指針」を策定 ★身体拘束の調査で特養・養護老人ホームの入所者の10％が車いすに固定、18％がベッド柵を使用していることが判明	○総務省は郵政民営化に向け、第3種・第4種郵便を原則廃止する方針案を発表 ○厚生労働省は有料老人ホーム事業者向けの指導指針を改定。介護居室は原則個室等の規制強化を決定 ◇本年度県内の5割を越える自治体が、介護保険の減免制度を実施 ◇県は昨年度の県所管の児童相談所で受けた児童虐待相談件数をまとめる。前年に比べ1・7倍に急増 ◇県は肢体不自由者が通学する県立養護学校8校全てに看護師を配置 ◇県は無認可保育施設を「私設保育施設」、ベビーホテルを「夜型保育施設」、市町長認定の小規模保育施設を「認定保育施設」に改称 ◇横須賀市は市立田浦保育園の運営を民間会社に委託（全国で2例目） ★本会組織再編。㈶かながわともしび財団との一体化を図る⑤	○政府の行政改革推進事務局は、非営利法人全体を対象に組織運営や情報公開のあり方等の原則を定める基本法を制定する方針を固める ○総務省はこれまで簡易保険の加入を一律に拒否されてきた先天性疾病児童の加入の可否を巡る判断基準の再検討を決定 ○財務省は失業手当や生活保護の受給基準額の引き下げを盛り込んだ「２００３年度予算編成の基本的考え方」の素案を明らかに ◇県中央児童相談所は、児童虐待防止のため県内で活動するＮＰＯ法人と「児童虐待相談援助に関する協定」を結ぶ ◇県リハビリテーション協議会「神奈川県地域リハビリテーション連携指針」を策定	◇横浜市各区の福祉保健センターで実施する乳幼児健診の未受診者の約8割が、市からの郵送による問合せに回答していないことが判明 ◇川崎市が市内の重度心身障害児・者の状況調査報告書を公表。高齢化により介護者の約7割が身体の不調を訴える等深刻な状況 ◇川崎市は、所得に応じて最大35％の家賃が補助される高齢者向け賃貸住宅の事業を開始
社会のうごき	▽欧州単一通貨「ユーロ」の流通開始 ▽米フロリダの高層ビルに小型機激突 ▽雪印食品牛肉偽装事件 ▽金融再編、ＵＦＪ銀行スタート ▽キトラ古墳で世界最古級の十二支像発見	▽冬季五輪、米ソルトレイクシティで開催 ▽日米首脳会談、米ブッシュ大統領初来日 ▽国産最大級ロケットＨ２Ａ打ち上げ成功 ▽ベルリン映画祭「千と千尋」が金熊賞受賞	▽ヤコブ病訴訟は5年4カ月で和解成立 ▽横浜市長選挙、無所属の中田氏が当選 ▽台湾でマグニチュード7・3の地震発生	▽学校5日制スタート ▽小泉首相靖国神社を参拝 ▽みずほＡＴＭトラブル発生 ▽川崎協同病院筋弛緩剤投与事件	▽北朝鮮の5人が中国の日本領事館に駆け込み ▽ミャンマーのスーチーさん自宅軟禁解除 ▽ワールドカップサッカー、日韓共同で開催 ▽東ティモール独立 ▽ゴルフ丸山茂樹氏、日本男子初の米ツアー2勝目	▽鈴木宗男議員、あっせん収賄容疑で逮捕 ▽横浜市「福祉特別乗車券」の偽造券発覚 ▽歌手・村田英雄さん逝く。享年73歳

2002年

7

○ホームレスの自立支援のために初の法律となる「特別措置法」が、参院本会議で可決・成立
○内閣府の「総合規制改革会議」が中間とりまとめを公表。福祉分野の民間企業参入などを求める⑩
◇県が「地域福祉の推進について」の基本指針を発表
◇県の調査で有料老人ホームが介護保険導入後3年で、約4倍増の80施設に急増していることが判明
◇横浜市は全国初の「後見的支援を要する障害者を支援する条例」を施行
◇横浜市は夜間・休日に悩みや不安の相談を受ける「こころの電話相談」を開始
◇川崎市は「社会的ひきこもり」の相談状況調査結果をまとめた。相談件数は厚生労働省推計の約5倍
★★「第38回関東ブロック乳児院研究協議会」を本会他の主催で開催⑨
★★「第43回関東ブロック保育研究大会」を本会他の主催で開催⑧
★かながわ外国人医療フォーラム2002―外国人医療のあしたに向かって―」を開催⑧

▽平均寿命過去最高を記録。男女とも世界一に
▽中国製ダイエット食品で女性10人が肝障害
▽横浜市さざんか学園元職員の、公務労災の公務外認定処分の取り消しを求めた行政訴訟は、原告側勝訴
▽堀江謙一さん、太平洋横断に再び成功

8

○文部科学省の学校基本調査で、昨年度不登校だった小中学生は過去最多の13万人を超えることが判明
○厚生労働省は来年度改定される65歳以上の介護保険料の引き上げが確実と公表
○日本精神神経学会は「精神分裂病」の呼称を「統合失調症」に変更することを決定
◇瀬谷区は中学生専用電話相談「こころのホットライン瀬谷」を開設。「フリーダイヤルカード」を中学生約3、000人に配布
◇療護施設自治会全国ネットワークが「第6回療護施設と人権シンポジウム」を本県で開催⑨

▽小泉首相訪朝、拉致問題を中心に金総書記と会談
▽知的障害者のサッカー国際大会開催
▽住民基本台帳ネットワーク稼動。
▽東京電力原子力発電所トラブル隠し発覚
▽アゴヒゲアザラシの「タマちゃん」多摩川に出没

9

○国土交通省は白ナンバーや普通免許での福祉タクシー運行を認め、来年始めの実現を目指す。社協等の福祉タクシーの運行に朗報
○坂口力厚生労働大臣は老人保健制度を廃止し、年齢・所得に応じ負担割合を調整する高齢者医療の抜本改革案を固める
○厚生労働省が新しい少子化対策「少子化対策プラスワン―少子化対策の一層の充実に関する提案」を総理に提出⑫
○文教施設協会「学校用家具に関する調査研究委員会」は特殊教育諸学校の学校家具の使用状況等を調査し報告書にまとめる
◇藤沢市の民間団体が夫婦間のDVで被害を被った子供たちを支援する「湘南DVサポートセンター」を設立
★「第14回かながわ高齢者文化祭」「第1回かながわシルバー美術展」を開催⑩

▽日銀、銀行保有株を直接買い取りへ
▽アジア大会、韓国釜山で開催
▽長野県知事選、田中氏が再選
▽大リーグイチロー、2年連続200安打達成

10

○「身体障害者補助犬法」が施行。公共施設、交通機関への盲導犬・介助犬・聴導犬の同伴を保護
◇横浜市内の特養入所待機者が約6、400人。要介護3以上が半数を超えることが判明
◇藤沢市は市民の学習の機会の提供と生きがい、健康作り等の支援を目指した「市生涯学習大学かわせみ学園」を開校
★第51回県社会福祉大会開催。日頃の功績を讃え997人・124団体が受賞⑪
★2001年希望の年記念事業「共生社会と市民活動を考える～希望の年に芽生えた芽を明日に」を本会他の主催で開催⑪
★かながわ福祉オンブズパーソン協議会準備委員会とあしすとが「かながわ福祉オンブズパーソン研究・交流集会」を開催⑪
★第三者評価事業仕組み検討委員会が、第三者評価のあり方に関する基本指針を公表⑪

▽東京千代田区で「路上喫煙禁止条例」が施行
▽北朝鮮拉致被害者5人が一時帰国
▽東大名誉教授小柴氏と島津製作所田中氏がノーベル賞受賞
▽バリ島連続爆破テロ事件
▽モスクワ劇場武装勢力占拠事件

11

○会計検査院の昨年度調査で、認可保育所の定員オーバーの放置で国庫負担金が必要以上に交付されていることが判明
○厚生労働省は所得の少ない高齢者に対し、自宅を担保に生活費を融資する「リバースモーゲージ制度」の要綱案を公表
◇天皇・皇后両陛下がエリザベスサンダースホーム（大磯町）を訪問。12月には愛名やまゆり園（厚木市）に

▽日朝交渉再開

12

○福祉分野への民間参入などを認めた「構造改革特別区域法」が参院本会議で可決・成立⑫
○NPO法（特定非営利活動促進法）の改正案が参院本会議で可決・成立。対象となる活動分野の追加のほか要件等が緩和
○政府は公的年金の支給額の引き下げを決定。介護報酬は15年4月から2・3％減額。母子家庭向け児童扶養手当は10月から減額を実施
○社会福祉・医療事業団が15年10月から「独立行政法人福祉医療機構」になることが参院本会議で可決・成立
◇8月の人事院勧告を受け、47都道府県全ての議会で14年度改定給与条例の削減が可決・成立。本県の削減率は2・05％
◇厚生労働省神奈川労働局の集計で、民間企業の身体・知的障害者の実雇率が法廷雇用率を大幅に下回っていることが判明
◇川崎市は児童相談所と連携し、児童虐待の恐れのある家庭を訪問し相談等に応じる「子ども家庭支援員事業」を開始
★平成14年度ふれあいのまちづくり事業関東ブロック研究協議会を本県主催で開催

▽北朝鮮核開発凍結解除を表明
▽国連イラク査察開始
▽毒物カレー事件、和歌山地裁は林真須美被告に死刑求刑

県社協のひろば

ペンライトの光とホカロンの温もりの中で
―児童虐待防止市民集会・パレードから―

去る十二月十三日、「児童虐待防止法の改正を求める全国ネットワーク市民集会・パレード実行委員会」の主催で、市民集会が東京都千代田区の日比谷公会堂で、パレードは日比谷から銀座通りを中心に行われました。

「市民参加型の集会」にしようとの発意のもと、全国から市民や児童福祉関係者ら約三千人が集った今回の集会に、本県からも本会並びに本県実行委員、児童福祉を支援するNPO法人等が参加を呼びかけ、二百五十余名の参加者を得ることが出来ました。

市民集会では、今年、虐待で幼い命をなくした全国六十一名の児童の名前が司会者より紹介され、参加者全員で黙祷を捧げました。また、実行委員会の森田ゆり実行委員長の挨拶は、ひしひしと訴えるものがあり、中でも「忘れてはいけないものは、諦めないこと」の言葉に胸を打たれました。続いて行われたピアノ、バイオリン、フルート、ビオラの四重奏による「アベマリア」「翼の調べ」は、鎮魂歌のように一層切なく心に響き、場内は厳かな空気に包まれました。

「子どものいのちを未来へつなぐために」極寒の夜空の下、参加者の熱い思いがひとつになった

パレードでは、師走の寒い時期に夜道を歩くということもあって、参加者への心配りから、ホカロンとペンライトが用意されていました。本県の受付では、県内からの参加かどうかを見分けるために、忠臣蔵の討ち入りに真似て、合言葉で「ペンライトと言えば、ホカロンと答えた人に渡そうか」などの楽しい会話も弾んでいました。

「児童虐待防止法と児童福祉法の改正」を求める今回の集会は、一日だけの集会・パレードということもあり、一般の方に児童虐待の切実さは伝わり難かったかも知れません。しかし、これをきっかけに「子どもたちの真の福祉」が、パレードで配られたホカロンのほのかな温もりのように、多くの方々の手によって広がることを願わずにはいられません。

（本県実行委員会）

本年度ケアマネ実務研修受講試験結果のお知らせ

10月27日、「第５回介護支援専門員実務研修受講試験」が東海大学湘南校舎で実施され、その結果がまとまりました。

受験者は4,785人で、ここ数年減少を続けてきた受験者数が、前年度比510人の増となりました。男女比は昨年とほぼ同じく女性が83%を占めました。

合格者は1,669人（最高齢75歳）と、前年度比100人減。合格率は過去最低の34.9%（これまでは平成12年度の38.9%）という結果になっています。

実務研修は１月中旬から、本会かながわ福祉人材研修センターのほか、県指定の研修実施機関で実施されます。

（試験実施本部）

試験実施結果（職種別合格状況）

職　種	合格者数（人）		職種別比率（%）	
	14年度	13年度	14年度	13年度
介護福祉士	607	562	36.4	31.8
看護師	451	522	27.0	29.5
相談業務従事	97	126	5.8	7.1
社会福祉士	84	63	5.0	3.6
介護業務従事	78	91	4.7	5.1
准看護師	71	97	4.3	5.5
歯科衛生士	64	66	3.8	3.7
薬剤師	53	54	3.2	3.1
栄養士	40	49	2.4	2.8
保健師	29	44	1.7	2.5
作業療法士	15	17	0.9	1.0
柔道整復師	13	8	0.8	0.5
あん摩マッサージ指圧師	12	15	0.7	0.8
理学療法士	11	24	0.7	1.3
医師	10	6	0.6	0.3
助産婦	9	3	0.5	0.1
はり師	9	8	0.5	0.5
歯科医師	8	8	0.5	0.5
その他国家資格	8	6	0.5	0.3
合　計	1669	1769	100	100

Information

役員会のうごき

◇**理事会**＝12月17日・①正会員入会、②本会事務局職員就業規程の一部を改正する規程（案）、③本会職員給与規程の一部を改正する規程（案）、④本会事務局職員の給与月額の特例に関する規程の一部を改正する規定（案）、⑤本会事務局職員の管理職手当の特例に関する規程の一部を改正する規程（案）、⑥本会特例一時金に関する規程を廃止する規程（案）、⑦平成14年度一般会計並びに特別会計補正予算（案）、⑧平成15年度本会事業取り組み方針について

◇**新会員紹介**

【経営者部会】㈱足柄緑の会

【施設部会】星の子保育園、知的障害者通所授産施設中沼コスモス学園、知的障害者通所更生施設中沼コスモス学園

福祉サービス第三者評価に係る集会

◇**内容**＝準備委員会による基調報告と、佐藤知恭氏（コミュニケーション・ワールド代表）の講演のほか、分野別分科会

◇**日時**＝2月15日㈯10時～16時30分

◇**会場**＝県社会福祉会館

◇**参加費**＝5千円（資料・昼食代）

◇**〆切り**＝2月10日㈪

◇**申込み**＝本会企画課

☎045―311―1423

FAX045―312―6302

第41回社会福祉研究発表大会

◇**内容**＝「変わりゆく家族像～福祉現場の対応のあり方は？」をテーマに、児童・高齢・障害の現場責任者の方を迎えたシンポジウムと、分科会（「児童のケア」「障害者のケア①・②（水中毒）・（地域生活支援）」「子育て支援」「リスクマネジメント」「地域・人材支援」）

◇**日時**＝2月14日㈮10時～16時45分

◇**会場**＝県社会福祉会館

◇**参加費**＝2千円（資料代）

◇**〆切り**＝2月7日㈮

◇**問合せ**＝本会研修研究課

☎045―311―1429

FAX045―313―0737

障害者IT普及推進研修

◇**内容**＝鈴木治郎氏（県障害者自立生活支援センター事務局長）、浜田英雄氏㈱ユーデット主任研究員）による講義と、ホームページ作成体験（参加費無料）

◇**対象**＝パソコンの基本操作のできる身体障害者の方（定員10名、先着順）

◇**日時**＝2月14日㈮14時～16時

◇**会場**＝アガペセンター

◇**〆切り**＝1月31日㈮

◇**問合せ**＝本会ともしび普及課

☎045―312―1121内線3202

FAX045―322―0121

寄託金品ありがとうございました

【寄託金】（敬称略）

▽神奈川県大衆音楽協会▽妙深寺婦人会▽㈱小田原ジムキ▽日本手芸普及協会キルトリーダーズ神奈川▽藤岡昭夫▽田中良平▽脇隆志　（計六八七、九七五円）

神奈川県石油業協同組合様より、交通遺児のためにご寄付をいただきました。

【寄託品】（敬称略）

▽日発睦会総務部会▽神奈川県定年問題研究会▽長瀬清志税理士事務所▽秋山

図書・資料

図　書

★福祉サービス実践事例集～施設長の役割と工夫（**日本福祉施設士会、筒井書房**）

★聞きとって・ケア～コミュニケーションとしての庶民史（野村拓他、かもがわ出版）

★なぜ介護事業者はトラブルを起こすのか？（**沖野達也、中央法規**）

★ユニットケア最前線（**特養・老健・医療施設ユニットケア研究会、医歯薬出版**）

★やさしい自閉症のススメ（**藤村出、横浜やまびこの里**）

★オロオロしなくていいんだね～ＡＤＨＤサバイバルダイアリー（**白井由佳、花風社**）

★子育て支援の現在～豊かな子コミュニティの形成を（**垣内国光他、ミネルヴァ書房**）

★子ども・若者の参画～Ｒ．ハートの問題提起に応えて（**子どもの参画情報センター、萌文社**）

資　料

★かながわにおける福祉サービス第三者評価の仕組みのあり方に関する基本方針／かながわ外国人医療フォーラム2002報告書（**本会**）

★福祉サービス苦情解決ハンドブック（**岡山県運営適正化委員会**）

★保健福祉施設における利用者の財産管理・日常的金銭管理のあり方研究会報告書（**山口県社協**）

★日本ケアマネジメント学会公開講座第１回神奈川県介護支援専門員研究大会（**神奈川県介護支援専門員協会**）

★介護サービス市場の一層の効率化のために～介護サービス価格に関する研究（**内閣府**）

★公立保育所ならではの特色を活かした取り組みにむけて（**全国保育協議会**）

★わたぼうし～旭区子育て応援隊たんぽぽ情報誌（**旭区子育て応援隊たんぽぽ**）

★今日の地域福祉ニーズの実態と福祉サービス提供体制に関する調査研究報告書（**社会福祉・医療事業団**）

本会「福祉資料室」がこの１カ月間に収集した主なものを掲載しました。福祉資料室には閲覧室があり、文献検索、資料利用相談、貸出し等のサービスも行っています。

◆利用時間：月曜日～金曜日（第３金曜、祝日、年末年始等を除く）の９時～17時

◆貸出し：２週間３冊まで

◆問合せ：☎０４５－３１１－８８６５

URL http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/

（ＨＰでも図書・資料の検索ができます）

企業の姿勢から学ぶもの(10)

それぞれの力を組織の力に結びつける

前回は、「日本チェーンドラッグストア協会」での、人材育成のようすをご紹介しながら、専門的な知識や技術を効果的に提供していくためのヒューマンスキルの大切さと、それを伸ばす組織体制のあり方について考えました。

今回は、「ヤマト運輸株式会社」(所在地：東京都中央区)を訪ね、社員個々のアイデアや提案を、実際の事業に反映させている事例等をご紹介しながら、知識や情報を共有し合うことの意味と、その効果について考えてみたいと思います。

「知識経営」は社員の力から

デフレや規制緩和など経済環境の変化が激しい今日において、企業ではこれまでの経営方針や手法に依存することなく、既存の事業の枠組みを超えた、新しい戦略を打ち出そうとしています。

特に、最近では社員の持つ知識や発想を企業全体で共有し、活用していこうという取り組みが盛んに行われています。企業内の情報の四〇%は、人の頭の中に存在すると言われています。個々の頭の中に蓄積されている「長年の経験」や「勘」等の「暗黙知」をどう引き出し、活字や言葉によって蓄積されている「マニュアル」や「報告書」などの「形式知」とをいかに効果的に組み合わせるか。また、それを系統化して活用できる組織を、どう作りあげていくかが課題となってきます。

荷物に込められた「気持ち」を運ぶ

微笑ましい黒猫親子のマークでおなじみの「ヤマト運輸㈱」の創立は大正八年。昭和五十一年には、「宅急便」という商品名で、家庭から家庭に荷物をお届けするサービスを開始。以降、時代のニーズに即した様々な商品を開発、展開してきました。

「大口企業から請け負って大口貨物配送するこれまでの物流のあり方を見直し、個々のお客様のご要望に柔軟に応えることのできるサービスを提供していこうと、小口貨物を扱う『宅急便』を始めました。宅急便には、田舎のお母様から都会に住むお子様への仕送りや祖父母様からお孫様への贈り物など、一つひとつにお客様の様々な思いが込められています。お客様の思いをお荷物とともに大切に運び届けたい。この気持ちは、弊社の社訓に『ヤマトは我なり』『運送行為は委託者の意思の延長と知るべし』という言葉で表現されています。これは、社員は皆自社の代表としての責務と役割を担うとともに、お客様の立場に立って、さらに喜んでいただけるサービスを創造し、主体的に行動していくことを意味しています。現在、約十万人いる弊社の社員一人ひとりが、自分の行動や対応が直接弊社の評価につながるのだということを自覚し、常に新しいサービスを探求していく姿勢が求められます」と広報部広報課の稲葉陽子さんは話します。

荷物に込められたお客様の気持ちを思う時、またひとつ新しいサービスが生まれる

それぞれの成功体験を伝えていく

会社の代表である個々の社員の、主体的な行動が会社を作る。その言葉の通り、社員のアイデアが採用され、全国レベルで事業化されたサービスがいくつもあります。

「皆さんよくご存知の『スキー宅急便』は、長野県のある店舗の社員が、林檎の収穫期以降配送が少なくなる冬季に、スキー板や大きなバッグを運ぶスキーヤーを見かけ、その負担が軽減できればと考案しました。また最近では、共働きや単身でお荷物が届くのを待っている時間がないご家庭のための、『時間帯お届け』サービスなどが考案され事業化されました。こうした背景には、社員が自由闊達に発言でき、アイデアを生かすことのできる職場環境があるからだと考えます。弊社では、店舗内で社員をいくつかのグループに分け、その中で知恵を出し合い業務を進めています。グループではそれぞれの受け持つ地域の特性やお客様の声を生かし、創意工夫をしながら業務を効率化させていきます。その中から生まれた成功事例を、他のグループにも伝え、活用

ヤマト運輸株式会社

設　　立：大正８年11月
資 本 金：1,205億4,700万円
代 表 者：有富慶二
社 員 数：96,168人
主な事業：宅急便・引越等の市民生活関連運送、調達から配達まで最適物流アウトソーシングサービスを行うロジスティク事業ほか
所 在 地：〒104－8125
東京都中央区銀座２-16-10
☎03-3541-3411（大代表）
URL:http://www.kuronekoyamato.co.jp/

していくことによって、会社全体の活性化を図っています」と言葉を続けます。

アイデアの生かされる環境を作る

今後ヤマト運輸では、現在全国にある約三千店舗を五千店舗にし、より地域に密着したサービスを展開していこうと考えています。

「店舗を広げることは同時に、責任と権限を今まで以上に第一線の社員に委譲することになります。社員一人ひとりが一国一城の主として自社を背負い、それぞれの地域性に合ったサービスをどう構築していくかが期待されるところです。また、昨年八月には「Y―Venture Dream（ワイベンチャードリーム）」という社内ベンチャー制度を設立し、従来の事業にこだわらない柔軟で斬新な社員のアイデアを、社をあげて支援していこうという取り組みも始まっています。『宅急便』に始まり、弊社では様々なサービスを打ち出してきました。その成功体験に依存してしまうことがないよう、個々の社員が常に0（ゼロ）ベースで業務を見直せる環境作りをすること。そして、日々の業務を固定的に捉えないで、いつもお客様の便利を考え、新しい発想や方法を提案してく社員の姿勢を、様々な形で奨励していく組織作りが大切だと思います」と結んでくださいました。（企画課）

今月のまとめ

今回のテーマである社員の持つ知識や発想を企業全体で共有し、活用していこうという取り組みは、職員個々の「長年の経験」や「勘」等を必要としているのに、掘り起こしと活用が上手くできずにいる、福祉業界にこそ必要な考え方ではないでしょうか。

この手法には、いい面がたくさんあります。一つは、現場に一番近い職員の提案だからこそ、利用者が望んでいるサービスが実現しやすいという点。そして、人からの指示ではなく、自分達で発想した提案には、責任を持って積極的に取り組めると言う点です。

一人の失敗も成功も全員で共有し、次のサービスに活用していく。これが、「ナレッジマネジメント」です。ナレッジとは、データや情報、知識、知恵等を包括したものと考えていただければ良いかと思います。ナレッジから価値あるものを抽出し、皆で共有していく。そして、新たなナレッジが創造しやすくなる環境を、どう構築するかがポイントだと思います。

より効率的に、効果的なサービスを提供していく一つの手法として是非一度、このナレッジマネジメントを理解し、現場に活用していただきたいと思います。

しかし、この手法の本来の目的を忘れ単なる仕組みとして捉えると、必ず失敗するということも、最後に申し添えておきます。

（「今月のまとめ」協力）㈱川原経営総合センター福祉経営指導一部
☎03－3289－0867　URL:http://www.kawahara-group.co.jp/

ひと・ネットワーク123

「障害者の自立と可能性を求めて」

障害者地域作業所
「アスタＰＣ」
所長　岡村道夫

当作業所は、パソコンを主体とした作業所で、平成10年に開所いたしました。

私自身中途障害で車いすを使用する者ですが、就職にまでいかない肢体に障害を持つ者の活動の場が大変少なく思い開所しました。

現在は利用者24名スタッフ５名で、20数台のパソコンを仕事、勉強、コミュニケーションの道具として活動しています。

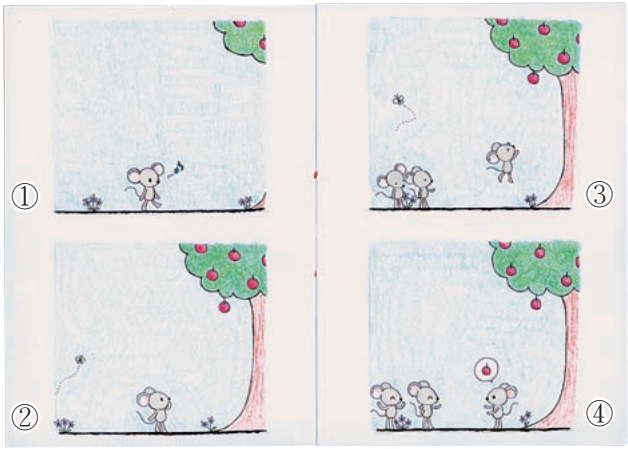
当作業所では、障害を持つ者にとってパソコンは、『可能性を秘めた箱』として捉えています。なぜならパソコンは、障害によって低下してしまった身体機能を補ったり、秘めている『能力』を引き出したり、高めたりすると考えるからです。様々なパソコンのテクノロジーを組み合わせることによって、今まで不可能だったことが可能になり、困難なことが容易になります。

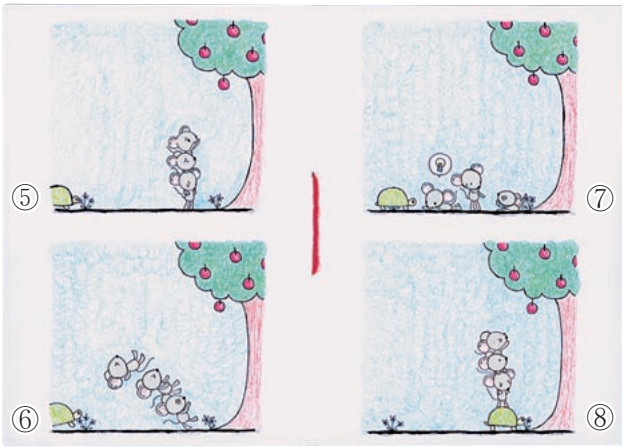
また、インターネットを活用することによって、いろいろな情報が得られ、逆に情報を提供することもできます。その得た情報が外に出る勇気やきっかけになり社会参加へとつながります。E-mailを用いれば、友達や家族はもちろん、知り合うことのできなかった人たちとの交流を通して様々な経験を積むこともできます。

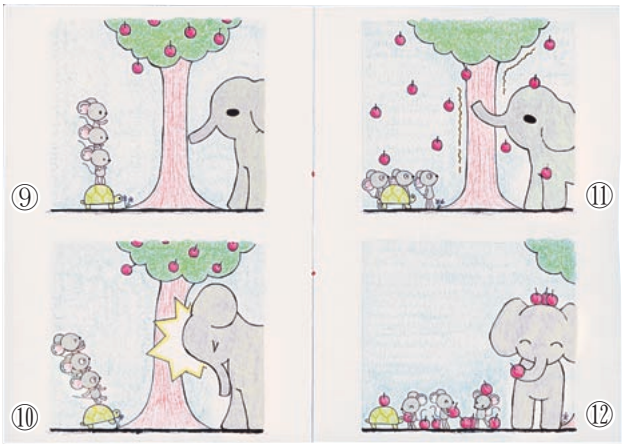
さらには、障害を持つ者にとってのパソコンは、上記の可能性を発展させ、『就労』にも結びつきます。自分の力で得られる収入の喜び、など、就労は自立の一歩になります。

現在では、企業に就職できる人や障害を持つ者自身がパソコンボランティアとして活動する人も増えてきています。

パソコンを最大限に利用することによって、『障害者として』ではなく、『人間として』当たり前に社会で暮らすノーマライゼーションの社会が可能になると考えます。







絵本の部
「ともしび大賞」
作品紹介

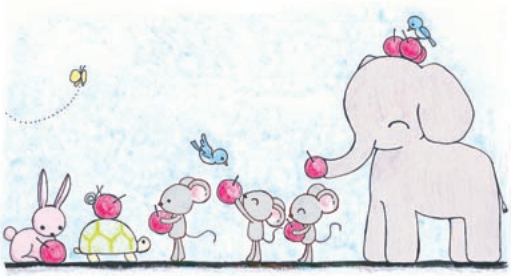
私立鶴見女子高等学校
3年　兼子朋美さん

美術部とボランティア部の顧問をしていた佐脇先生が、美術と福祉を一緒に考えてほしいと「ともしび絵本」製作を3年生の美術の授業に取り入れたことがきっかけとなり、作品を製作したという兼子さん。

動物が登場する作品を作りたいと思った兼子さんは、日頃思っている「友だちが大切」をヒントに、「力を合わせれば何でもできる」お話にしようと決めた。しかし、どんな絵にしたら皆に分かりやすくなるか随分悩んだそうです。

「文字を入れずに絵だけで表現して思いを伝えたかった。大賞受賞はとても嬉しいです。これからの励みになります」と、はにかむような表情で微笑んでいたのがとても印象的でした。

（写真・文　菊地信夫）



ー社会福祉施設の設計監理ー

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771㈹／FAX03(3449)1772
E－mail：yasue-a@nifty.com

養護ホーム（平塚市）

新築・増築・改修等お気軽にご相談ください